

野木町 教委だより

第1号
令和2年5月



いよいよ小学校で新学習指導要領が全面実施となりました

教育長 菊地良夫

本年度4月より小学校において新学習指導要領が全面実施となりました。すでに幼稚園では平成30年度から全面実施となっており、中学校は令和3年度、高等学校は令和4年度から全面実施となります。

グローバル化や人工知能・AIなどの技術革新が急速に進み、これからは予測困難な時代を迎えると予想されています。

子どもたちは自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく力が求められます。およそ10年に1度、学習指導要領が改訂されますが、今回の改訂は、小学校中学年から「外国語活動」の導入や、小学校におけるプログラミング教育の必修化など社会の変化を見据えた新しい学びへ向かう改訂となっています。また、学習評価についても、すべての教科において、今までの4観点から3観点到整理されました。

以下、新しい学習指導要領について説明をいたします。

①新しい学習指導要領で育む資質・能力について

新しい学習指導要領では、教育課程全体や各教科などの学びを通して、「何ができるようになるのか」という観点から、全ての教科で育む資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱として再整理しました。「知識及び技能」は、個別の知識だけでなく、習得した個別の知識を他の知識と関連付けて深く理解し、社会の中で生きて働く知識となるものを含んでいます。例えば、「何年にこうした出来事が起きた」という歴史的な事実に基づく知識は、「その出来事はなぜ起こったのか」や「その出来事がどのような影響を及ぼしたのか」を追究する学習の過程を通じて、当時の社会や現代にもつ意味などを含め、知識相互がつながり、関連付けられながら深い理解へと知識の定着を図ります。そして、その「知識及び技能」をどう使うかという、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」や学んだことを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」を含めた「資質・能力」の3つの柱を一体的に育成していきます。

②「何を学ぶか」具体的な教育内容の改善・充実について

これからの子どもたちは、グローバル化や情報化などによる社会の変化に対応し、自分たちを取り巻く様々な社会の課題に向き合い、解決しようとする力が必要です。そのような資質・能力を育むために、新学習指導要領では主に以下のような教育の充実を図ります。

言語能力の育成

言語能力はすべての学習の基盤となる力です。国語だけでなく他の教科等でも、レポートの作成や議論などの言語活動を行い、教育課程全体を通じて言葉の力を育みます。

外国語教育の充実

小学校3,4年で「外国語活動」が、小学校5,6年で教科としての「外国語」が導入され、「聞く」「読む」「話す」「書く」の力を総合的に育みます。

プログラミング教育の充実

小学校で「プログラミング教育」が必修化されます。自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか、組み合わせをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのかといった論理的な思考力「プログラミング的思考」などを育みます。また、中学校においてもプログラミング教育に関する内容が充実しました。

道徳の「特別の教科」化

「自分ならどうするか」という観点から道徳的価値と向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者と議論し、道徳的価値を多面的・多角的に捉える授業などを通じて道徳性を育む「考え、議論する道徳」へと質的転換となるよう「特別の教科 道徳」が新設されました。「特別の教科 道徳」については、小学校では平成30年度から、中学校では令和元年度から教科書が支給され先行実施されています。

これらの他にも「理数教育」「主権者教育」「消費者教育」「金融教育」「防災・安全教育」「伝統や文化に関する教育」「体験活動」などの充実が図られます。



③「どのように学ぶか」主体的・対話的で深い学びへの授業改善

習得・活用・探究という学びの過程の中で、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付け、多様な人との対話や先哲の考えなどを手掛かりに考えを広げ、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら知識を関連付けてより深く理解し思いや考えを創造するような質の高い学びの実現に向けた「主体的・対話的で深い学び」へと授業改善を行います。

④評価の観点の整理

各教科の評価の観点は、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、昨年度まで教科ごとの特性により異なっていた評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されました。「特別の教科 道徳」「外国語活動」「総合的な学習の時間」についてはこれまで通り文章でお伝えします。

子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、家庭や地域の協力が欠かせません。今後も野木町の学校教育に対しご理解、ご協力をお願いいたします。